

夢童

菅波 茂

昨年12月26日に発生したスマトラ沖地震・津波は30万人以上の死者と天文学的な数の被災者を出した。「神は我々を見放したのか」と人々は嘆き悲しんでいる。砂漠の神と異なってモンスーン地帯の神は人々に優しいはずなのに。

AMDAはインドネシア、スリランカそしてインドの被災地に岡山の本部と9カ国の支部から総計100名を超え、る医療チームを派遣した。現地の支部による救援活動、インシアチブに加え、日ごろの活動でつくりあげた信頼感が迅速にして効果的な救援医療活動を可能にしてくれた。AMD A創設から20年間に及ぶ緊急大道支援活動の総集編ともいえる。パートナーシップと

は困難を共にする人間関係と定義している。本部と9カ国の支部は2カ月にわたる被災者救援活動により、今まで以上に堅固なパートナーシップを築けたと確信している。

災害発生から2カ月を過ぎた現在、救援活動は緊急救援から復興支援へと移行しつつある。復興支援とは夢の実現である。夢は過酷な現実から生まれる。つまり災害復興支援は「被災者と悲しみを共有し、被災者の夢をはぐくむ」ものでなければならぬ。

AMDAでも現地住民の願いをもとに復興計画を立てた。インドネシア・バンドアチエで最大の悲劇は大量の医療専門家の死である。六つの病院のうち、四つは建物が崩壊し、残った病院の一つ、ザイナルアヒディン病院は半数以上の医師や看護

悲しみと夢を共有して

師の死によって閉鎖されていた。プライオリティは人材育成である。インドネシア・ハサディン大学とザイナルアヒディン病院、そしてAMD A本部との協力体制のもとに看護師の臨床教育プログラム。計画のもう一つは災害研究所を設立し、災害後遺症の方々の長期的なケアを含め、地域防災教育、災害救助教育等々のプログラムを行うことである。スマトラ島を含めて過去に地震や洪水などの災害に悩まされてきたインドネシアの歴史に沿って「コンセプト」と言えよう。

AMDAは「スリランカ医療和平プロジェクト」で政府、反政府(タミル・イーラム解放のトラLLTTE)そしてイスラムのそれぞれの地域で医療活動を2年間実施してきた。この実績と各グループとの信頼関係に基づいた復興支援プログラムを開始している。先進国並みの保健制度と教育制度を誇るスリランカにはなぜか学校保健のコンセプトがない。北部のLTTE地区では「すべての小学校における巡回診療と衛生教育を」という要請に基づいてプログラムを進めている。また南部と東部では現地の公衆衛生担当官と共に、学校や難民キャンプでの保健衛生教育を担う人材育成プログラムを実施している。

インドのチェンナイではソーシャルワーカーの地元NGOと組んで子供の災害後遺症のケアに関するプログラムを準備中である。

岡山市で12、13の両日、スマトラ島沖地震・津波緊急救援活動に参加した9カ国のAMD A支部も参加する復興支援会議が開催される。

（アジア医師連絡協議会代表）
題字は筆者